

## 第56回 姫路文化賞



ひぐち ゆきこ  
樋口 由紀子 (川柳)

「その人がその地にいることでその文芸は豊かになる」といった文学の世界では定番的な言い回しがあるとすれば、次のように言い換えてみよう。〈樋口由紀子さんが姫路にいて（姫路・播磨の）川柳文芸は豊かになる〉。

1977年に結婚によって姫路に移り住み、いまではすっかり姫路に定着して文化の一翼を担っている。

樋口さんの川柳との出会いは、1981年に時実新子の教室に参加し学んだことから始まる。しかしべったりではなかった。付かず離れずの関係をつづけいわばエコール・ド・新子の鬼っ子だったのかもしれない。鬼っ子は時として鬼才へと変化する。

樋口さんはこの日本列島の川柳文学全体を俯瞰しても、最も先鋭的な表現者のひとりなのである。

大橋愛由等〔詩人・俳人〕

### プロフィール

- 大阪府高槻市生まれ。
- 結婚を機に姫路市在住。
- 1980年に時実新子さんの『月の子』に感動し、川柳を始める。
- 1998年「MANO」を創刊
- 川柳Z賞大賞、川柳句集文学賞受賞
- 現在、川柳誌『晴』編集発行人、
- 川柳読みの会「うみの会」代表
- 俳句同人誌「豈」（攝津幸彦創刊。筑紫磐井発行。大井恒行編集）、  
句誌「トイ」（青木空知・池田澄子・樋口由紀子・千場達也）のメンバー
- 著書 句集『ゆうるりと』『容顔』『セクション柳人樋口由紀子集』（邑書林／2005）  
エッセイ集『川柳×薔薇』（ふらんす社／2011）  
『めるくまーる』（第七句集／ふらんす社／2018）
- 編著書 『金曜日の川柳』（左右社／2020）
- 共著 『現代川柳の精鋭たち』『セクション柳論』。

## 第56回 姫路文化賞



みうら しんいち  
三浦 信一（木工芸）

三浦信一さんは、学生時分から正倉院の御物に関心を寄せ、大学卒業後は、教員として勤務の傍ら、木工の作品制作に励んでいました。

そんな時、勤務校で初めて三浦さんと出会い、以来30年近く、その作品を觀に日本伝統工芸会の近畿展・本展など、大阪、京都に出かけています。三浦さんは現在、日本伝統工芸会の正会員であり、これまでに28回の入選を果しています。

正倉院御物の細やかな作業に興味・関心を覚えた三浦さんは、それを現代に蘇らせることに挑戦してきています。御物の飾箱に象嵌された緑色の素材は「何か？」と思い、色々調べ、鹿の角を緑青漬けにして創り、自分の作品の中に使い込んでいるのもその一つです。

木工芸の分野で、表現方法として金属・螺鈿・漆など多岐にわたる素材を用い大変魅力的な作品を作り続けています。素晴らしい感性と技量をもって制作された作品の一つは文化庁に買い上げられています。

今は、黒檀という大変硬い木を使用していますが、きめ細かな作業の為に、制作に使う刀は自分で工夫して作り、活用するなど、作品への情熱は、尽きるところがありません。

可知 裕史〔元小学校長〕

### 略 歴

1976年頃より工芸を志す

1983年 日本工芸会近畿展 大阪府教育委員会賞

1986年 日本伝統工芸展初入選 以後出品を続ける

1987年 姫路市美術展 姫路市長賞

1988年 姫路市美術展 姫路市教育委員会賞

1990年 このころから正倉院御物・木工芸品の木画の研究を始める。

1993年 日本伝統工芸展 受賞 作品文化庁買い上げ、  
東京国立博物館に作品収蔵

2010年 日本工芸会近畿展 松下幸之助記念賞

2017年 日本工芸会近畿展 日経新聞社賞

2020年 第67回日本伝統工芸展入選（入選26回）

# 文化功労賞



おおにし たかよ  
大西 崇与（日本画）

久保一人さんは、長らく加古川市役所に勤務され、最後には特別職の要職を歴任されました。在職中には日展作家（日本画）の故宮崎亮吉氏に師事し研さんを積まれ、加古川市美術展において入賞する伎倆を発揮されるなど創作者としての実績を残されました。

その一方で、若き頃から播磨地域の日本画家や書家たちを調査研究するとともに、関係作家たちの作品をコツコツ収集してこられました。

その成果は「播磨ゆかりの日本画家三人展」（平成 27 年）や「明治の天才書家伊藤明瑞展」（平成 29 年）という展覧会の図録に結実されました。ともに明石市に住まわれた土屋嶺雪と伊藤明瑞の両氏をとりわけ集中的に調査し、知られざる業績を明らかにしたことは、おおいに特筆すべき功績ではないかと思います。

また、学生時代から実証的な歴史研究に取り組まれ、史学研究の基本ともいうべき史料批判を通して、郷土自慢に陥らない物の見方で「中世・近世前期の東神吉～播磨神吉城主神吉氏の興亡～」(平成 11 年、私家版)を刊行しています。

このように、創作者として、また美術作品の研究、地域の歴史の再評価など長年にわたり多方面で地域文化の振興に尽くされた業績の数々は「文化功労賞」の名に値するものと考えられます。

岩坂 純一郎（加古川市文化連盟会長）

## 略 歴

- 昭和 49 年 (1974)3 月 21 日 立命館太学文学部史学科日本史学専攻卒業（学芸員資格）
- 昭和 49 年 (1974)4 月 1 日 加古川市役所入庁（総務部管財課勤務）
- 昭和 60 年 (1985)4 月 1 日 ～平成 2 (1990) 年 3 月 31 日  
加古川総合文化センター開設準備室及び同館勤務、施設管理、美術展・博物館特別展等を担当（「加古川市展を観る歴代審査員展」・「森月城展」・「写真で見る明治・大正・昭和初期の加古川」等）  
加古川市教育委員会教育総務部長・市総務部長・市監査委員・市副市長等を平成 26 年 (2014) 年 7 月まで歴任（平成 24 年 (2012) 3 月 31 日 加古川市役所退職）
- 昭和 51 年 (1976) 宮崎亮吉画伯主宰の「研画会」（のち「青亮会」）で日本画を学ぶ
- 平成 11 年 (1999)7 月 1 日「中世・近世前期の東神吉」自費出版
- 平成 28 年 (2016)「播磨ゆかりの日本画家（福田眉仙・森月城・土屋嶺雪）3 人展」を企画実施（松風）
- 平成 28 年 (2016)「自然の美を求め続けた日本画家宮崎亮吉展」を企画実施（松風）
- 平成 29 年 (2017) 明治の神童書家伊藤明瑞展」を企画実施（於加古川市立松風ギャラリー）

## 受賞歴

- 加古川市美術協会展・奨励賞
- 加古川市美術展（日本画の部）・市長賞・美術協会長賞・美術協会長賞
- 加古川市・高砂市合同美術展・合同美術展賞・美術協会賞
- 兵庫県日本画家連盟公募展・兵庫県文化協会賞・奨励賞
- 平成 27 年 (2015)6 月 15 日 加古川市功労者表彰

## 現在

加古川市民病院機構監事／加古川商工開発株式会社常勤監査役／公民館・地域で講演活動

# 文化功労賞



おさき あやめ  
尾崎 織女（民芸玩具学芸員）

父が文筆家を目指していたことを父の知人から聞かされ、書くことへの思いが募っていった。

東芝短編小説佳作入選を皮切りに、地域のおばさんたちとエッセイ教室を開きながら西姫路「ふるさと新聞」に、ドリームおばさんエッセイは17年間収録され出版された。

22歳の頃、作家・劇作家の獅子文六邸にお手伝いさんとして住み込み、応接間での作家や俳優との交友を描いた「獅子文六先生の応接室」は30数年かかり出版した。

主婦の目線で書いたエッセイを神戸新聞に応募し、次々に入選を果たし、力をつけていった。「ふるさとの城は」詩と写真で構成し、評価を得た。

「やさしい人」は岩田夫人（獅子文六）夫人の幸子さんの思い出、5時間にわたって岩田先生に訴え続ける三島由紀夫氏のこと、著者の姿が生き活きと描かれている。この作品集は事実在即し、ストレートにぶつけ、描かれた人物の魅力を余すことなく伝えてくれている。読後感がよい。

「先生は無名の書き手たちの作品は、そのほとんどが誰に読まれるでもなく打ち捨てられてゆく、せめて俺が、読むべきでなかろうか」「K先生への手紙」は、この言葉に感動した著者が「一度でいいから生きておられるうちにほんの少しでもいいからお話がしたかった。」と結んでいる。

「これからは平和のことを考え。人々の暮らしを見つめていきたい」と抱負を語っている。  
守谷忠彦（フォークシンガー）

## 略 歴

- 姫路市生まれ
- 1963年 東芝短編小説佳作入選
  - 1972年 貿易振興会懸賞論文入賞
  - 1985年 中内 功（ダイエー社長）懸賞論文入賞
  - 1988年 「神戸市民の学校」にて現代詩を学ぶ
  - 1990年 西姫路「ふるさと新聞」でミニエッセーを17年間連載
  - 1994年・2003年・2010年 講談社出版サービスセンターにて『ふるさとの城は』詩集出版
  - 1994年 郵便局・姫路特推連「ふるさと企画」にて詩集の中の8編を絵ハガキとして出版される。
  - 1994年～2007年 神戸新聞文芸欄に投稿をする
  - 1998年 岩手県衣川村「星星の街・あおぞらの街」全国エッセイコンクールに佳作入選
  - 2003年 影書房にて『獅子文六先生の応接室』-「文学座」騒動のころ-出版
  - 2008年 姫路市文化振興財団助成事業として「綱を一緒に…」・「やさしい人」・「着物の染み」・「すず虫」・「家のおばあちゃん」などエッセー入選を、影書房にて神戸新聞入選作作品集として出版
  - 2018年 工房ノアにて「K先生への手紙」出版

## 活動歴

- 姫路読書会「鷺の苑」編集長
- 兵庫県地域ビジョン委員及びアドバイザー
- エッセイ教室約10年間開設
- 片岡家古民家「雑学塾」文章教室担当

## 第38回 黒川録朗賞



くぼた やすこ  
窪田 泰子（古書店主）

現代では珍しいと言えるストーリーテラーとしての才能が期待される作家である。

兵庫県看護功績賞を受賞されている優秀な看護師、その指導者として、長年培われてこられた知識と幅広い人間観察の目、そして厳しくも“人”へのあくまでもやさしい豊かな愛を土台に紡ぎ出される物語は、快く素直に読む者の心を惹きつけ癒す。

出版されるご本の表紙・カットを飾るのは夫君の北山直一氏である。誌名『川は流れて』『追い風』『追憶』等と併せて読者はすでに作家の人柄と暮らしをプレゼントされ、何かほのぼのとした〈希望〉を喉元に読み始める。

キャリアウーマンとして、家庭も守り、周辺の人々とも親しみながらシャンソンを歌う、人間大好きな作家の出現である。

気取りのない語り口、筆さばきは、読者にいつの間にか作家と喜怒哀楽を共にさせてしまう巧まざるして巧みな力を持っている。

「もうこれ以上遠まわりしないわ」「心豊かに自分らしく歩いてゆこう」。帯文の言葉である。

専門分野を持つ作家の強みを生かし、大いに意欲的且つロマンあふれる作品を産み出してほしい。それが叶う作家である。どうぞ欲張って下さい。

柳谷郁子（作家）

### 略 歴

- 1946年 兵庫県に生まれる
- 1968年 国立姫路病院附属高等看護学院卒業。国立姫路病院に就職。
- 1974年 出産：育児のため退職。
- 1977年 藤森看護専門学校、姫路市医師会看護専門学校で勤務し2007年に退職。
- 1997年 「播火」同人誌に参加し、以後エッセイ『老いを看まもる』、小説『あれから』『思い出探し』『籐の椅子』等を発表。
- 2005年 『フーヘン（約束）』にて第4回アングラ文学賞佳作入選。
- 2008年 小説『川は流れて』（ほおずき書籍）出版。
- 2011年 エッセイ集『追い風』（ほおずき書籍）出版。
- 2019年 短編集『追憶』（ほおずき書籍）出版。

### 現在

芸術文化団体「半どん播磨の会」常任委員長  
日ノ本学園高等学校 非常勤講師

## 第38回 黒川録朗賞



つちだ けいすけ

土田 景介（声楽・合唱指揮）

土田景介氏は大阪音楽大学音楽専攻科在学中よりモーツァルト・ドニゼッティ・ヴェルディなど多くのオペラに出演してこられました。現在も関西二期会正会員として国内の様々な舞台で活躍中です。

また、合唱の指揮分野では、兵庫県立「いなみ野学園」コーラス部、同OBコーラスサークル、姫路第九合唱団、宍粟第九合唱団、合唱団「希望」、国立奈良女子大OBコーラス講座など、他数多くの合唱を指揮・指導するなど幅広く活躍されています。

ベートーヴェンの第九公演では、2007年姫路第九35周年記念のソリスト・オーディションに合格後、加古川労音・宍粟労音はじめ、毎年各地でテノールソリストとして出演されています。

2017年10月には、エレクトーン奏者神田将さん演奏による、30年ぶりの宍粟労音第九公演を指導・指揮され大成功を収め、以後の宍粟労音第九公演に尽力されています。

2020年8月には同じく宍粟市において、コロナ禍で合唱練習が難航する中、考えられる最大限の対策をとり神田将さんとの「絆で歌う夏のミュージカル」公演の成功にも大きな力を発揮されました。

いつもわかりやすく優しいご指導と、さわやかな笑顔で播州の合唱界をけん引されています。

園田真一（そのだ しんいち）[姫路第九合唱団副団長]

### 略 歴

- 大阪音楽大学音楽専攻科卒業。在学中よりモーツァルト・ドニゼッティ・ヴェルディなど多くのオペラに出演。またベートーヴェンの第九公演では毎年各地でテノールソリストとして参加するなど活動している。
- 合唱の指揮分野では、兵庫県立「いなみ野学園」コーラス部、「いなみ野学園」OBコーラスサークル、姫路第九合唱団、宍粟第九合唱団、国立奈良女子大OBコーラス講座など、他数多くの合唱を指揮・指導するなど幅広い活動を展開している。

また、2017年10月には30年ぶりの宍粟市第九公演を指導し、指揮者としても尽力し、成功へ導いた。その後も毎年演奏し、2020年には自身初となる演出も担当し成功をおさめた。
- 向井順子、故横田浩和、各氏に師事。
- 現在、(株)土田音楽教室 代表取締役、イプシロンオペラアカデミー会員、
- 関西二期会正会員。

## 第38回 黒川録朗賞



つばた まさゆき

坪田 昌之 (彫刻)

坪田昌之氏は姫路を制作の拠点として、世界各地のアートフェアやビエンナーレで作品を発表し、高い評価を受けている。古代寺院など木造建築に興味をもったことをきっかけに、木を使った彫刻作品を制作しつづけており、近年は石やガラスも素材に用いて表現の幅をひろげている。

シンプルかつ洗練された作品は、青・赤・グリーンなどの明るい色調から焦げ茶・黒・鉛色など渋いもの、また木地がそのまま露わなものまで、さまざまな表情をみせ、その造形は、見る者の五

感に、さらに心の深層にまで浸透する「気配」をただよわせている。

それは根源的であり、既知でありながら遠くへ忘れ去られた、あるいはまったく未知の、まさにいみじくも「未知の記憶」と銘打たれるイメージである。

その領域に分け入り、だれの目にも見えるものとして具象化する彼の活動は、世界の建築家やインテリア・デザイナーの感性とも響き合い、国内外のオフィスビル、ホテル、マンション、病院など、さまざまなトポスに作品は設置され、多くの人びとの目にふれている。今後の活躍が楽しみな作家である。

北川太郎(きたがわ たろう)[彫刻家]

### 略 歴

○1976 大阪生まれ /2001 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科彫刻修了

○近年の主な個展／ 2019 福住画廊 (大阪), gallery MOE LA(ロサンゼルス、アメリカ)／ 2018 H-art Beat Gallery(東京)['15], Whitestone Gallery(東京/長野/台北、台湾)／ 2016 山木美術(大阪)['15,'14,'11'09,'06], ギャラリールネッサンス・スクエア(兵庫)／ 2015 Gallery LVS(韓国), COHJU Contemporary Art(京都)['11]／ 2014 The Tolman Collection Tokyo(東京), Old Course(大阪)／ 2013 Maek Hyang Gallery(韓国), INSA Gallery(韓国)／ 2011 NIKI ギャラリー冊(東京)／ 2010 ギャラリーファインアート(大阪), 信濃橋画廊(大阪)['05,'02]／ファエンツァ市庁舎(イタリア)[エミリアロマーニャ州公式行事・10月日本祭]／ 2006 BOUTWELLDRAPER GALLERY(オーストラリア)

○近年の主なグループ展／ 2020 Resonance, H - art Beat gallery(東京)／ 2019「新物質主義」Whitestone gallery(東京)／ 2015「Taguchi Fine Art + The Third Gallery Aya in Nakanoshima banks hosted by Kumi Okumura」中之島 design de(大阪),「ASYAAF」(Asian Students and Young Artists Art Festival)招待作家, CULTURE STATION 284[旧ソウル駅](韓国)／ 2012「Maximal Minimalists」LVS gallery(韓国),「Biennale International Casablanca」(モロッコ),「Made in Japan」HD Riudebitlles i Ajuntament de Sant Pere de Riudebitlles(スペイン)／ 2011「メイド イン ジャパン 坪田昌之・カトウ カオリ2人展」ユートピア アート シドニー(オーストラリア)／ 2010「坪田政彦・内田鋼一・坪田昌之3人展『語りかける色とかたち』」中野邸美術館/福田画廊(新潟)

○主な作品設置／東京ガーデンテラス紀尾井町(東京)/ UBS 銀行東京支店(東京)/ OPUS Arisugawa(東京)/ 読売新聞和歌山支局(和歌山)/ トヨタ日進研修センター(愛知)/ ホテルブライトンシティ大阪北浜 \*全館プロデュース(大阪)/ シスメックス株式会社テクノセンター・中央研究所(兵庫)/ 三井住友海上火災保険株式会社・淀屋橋ビル(大阪)/ ホテルインターコンチネンタル大阪(大阪)/(株)ダイセル・イノベーションパーク(兵庫)/ he HIM Collection(シンガポール)/ 南港City Link Office Building(台北,台湾)/ 素粋居(三重)他 多数

# 第38回 黒川録朗賞



やまなか あゆむ  
山中 歩夢 (ピアノ)

山中歩夢さんは1988年生まれ。父親の転勤のたびに居を移されたが、一番多感な中学、高校時代を姫路で送る。4歳からヤマハ音楽教室に、5歳よりピアノを始め、転居のたびにヤマハのシステムで勉強を続け、高校受験のために一時中断するも、入学と同時に“ピアノを続けたい、東京藝大に行きたい”という思いが再燃し、高校2年で全日本学生音楽コンクール大阪大会2位、そして一浪の後、見事、東京藝術大学に合格。現在副学長を務めておられる渡辺健二氏に師事。学部、大学院を通して、リストの研究を続け、ハンガリー国立リスト音楽院でもファルヴァイ氏という良き師を得て、ハンガリー、オランダ等でのコンクールで素晴らしい成績を修められた。日本でも摂津音楽祭、宝塚ベガ音楽コンクール等で1位を受賞。2017年末、留学を終え帰国。東京での帰国記念リサイタルを皮切りに、ソロ、室内楽、伴奏等で意欲的に活動しておられる。そして2020年度からは東京藝大ピアノ科非常勤講師として、コロナ禍の中、後進の指導にもあたられている。

姫路西高の遙に後輩の山中さんとは、西高音楽部主催のジョイントコンサートに、ゲスト出演で何度かご一緒したことがご縁で、謙虚で真面目、そして演奏はエネルギッシュな彼を応援するようになった。

海外コンクールに出場時、“useful なピアニストになりたい”と語り、社会や人々の“役に立てるピアニスト”を目指している歩夢さん、私たちの夢を叶えるよう歩んでほしい。

林 裕美子 (はやし ゆみこ) [エリザベト音楽大学教授／武庫川女子大学講師]

## プロフィール

- 1988年生まれ、兵庫県姫路市出身、神戸市在住。
- 兵庫県立姫路西高等学校卒業、東京芸術大学卒業、同大学大学院修士課程を修了。ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学にてピアノソリスト課程修了。
- 第21回宝塚ベガ音楽コンクール第1位、第26回摂津音楽祭金賞、聴衆賞。第11回リスト国際ピアノコンクール（オランダ・ユトレヒト）セミファイナリスト。等
- これまでに宝塚ベガホール（兵庫）、マグノリアホール（大阪）、村上三島記念館（愛媛県大三島）、オランダ（Den Dolder、Vught など）、ヤマハホール（東京）、キャスパホール（姫路）にて自身のリサイタルを開催し、姫路パルナソス音楽祭、摂津市市政50周年記念演奏会、在ハンガリー日本大使館主催演奏会、リストフェスティバル（ブダペスト）、大阪クラシックなど、多くの演奏会に出演。日本センチュリー交響楽団、横浜交響楽団、ファイロニ室内管弦楽団と共演する。
- ソロ奏者として、また室内楽奏者や伴奏者、オーケストラの鍵盤楽器客演奏者などとして関西・関東を中心に活動中。
- 2020年度より東京芸術大学ピアノ科非常勤講師。